



# いとすぎの丘

日本赤十字豊田看護大学  
Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

創刊号

## 日本赤十字豊田看護大学開学

### 一周年を迎えて

学長 村地俊二



○四(平成16)

年4月5日に

大併設の地域看護学専攻科(学位授与機構認定)も、共に新大学の学舎に移動共存し、本年度末には終焉を迎える予定であります。

開学式を、翌4月6日に第1回入学式を新装成つた講堂において挙行

し、大勢の方々の祝福と期待の下に輝かしいスタートを切りました。

そして早くも1年が過ぎようとしている今、創業1年の歩みを総括し、そして明日からの歴史を刻み込んでいくであろう「広報誌」の発刊は、誠に意義あることと嬉しく、頼もしく思います。

名古屋市中村区の名古屋第一赤十字病院の一隅において、日本赤十字学園の愛知女子短期大学（のちに愛知短期大学と改称）は開学後15年の看護教育の歴史を形成してきましたが、豊田看護大学の設立と共に、短

期大学も豊田市に居て学業を続け、二〇〇六(平成18)年3月に閉学を迎える予定であります。平成10年度から短大併設の地域看護学専攻の愛知短期大学地域看護学専攻科(学位授与機

構認定)も、共に新大学の学舎に移動共存し、本年度末には終焉を迎える予定であります。

本学「広報誌」には開学した豊田看護大学の全活動が教育・研究はじめ、学生生活、入学試験、国家試験、地域との交流、年間情報その他種々の面から記載されるものと思われ、全学教職員間、あるいは地域、学外関係者との情報交換に大いに役立つものと思われます。

第1年の活動体験を基礎に、次なる新年度の躍進と全学諸氏のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

負傷者救護の精神に則り、看護・救護活動は、国籍・人種・宗教政治の如何に関せず、健康のあらゆる問題を解決することを信条としております。

その精神の下に大学の教育・研究・

が、豊田看護大学の設立と共に、短

いとすぎの丘



**4月**

5～6日 開学式・入学式

8～9日 合宿研修  
(合歓の郷・三重県)\* 20～21日 専攻科合宿研修  
(あいち健康プラザ・大府市)

▶開学式



大学一年のあゆみ

学外演習  
(明治村)オープン  
キャンパスオープン  
キャンパス**11月**

5～6日 いとすぎ祭

20日 中部各県支部長推薦試験

**12月**5日 高等学校長推薦・社会人特別選抜  
入学試験専攻科特別選抜入学試験**5月**

25日 「赤十字原論」学外演習 (明治村)

**6月**

31日 第1回オープンキャンパス

**7・8月**

28日 第2回オープンキャンパス

**9月**

\* 18日 専攻科オープンキャンパス



いとすぎ祭

\*は短大行事です

**1月**

8日 専攻科一般入学試験

**2月**

13日 一般入学試験

**3月**

\* 9日 愛知短期大学 卒業式・修了式



卒業式・修了式

## 大学一年を振り返つて

看護学部二年

岡 部 美 貴

いると強く感じた。

初めて日本赤十字豊田看護大学に足を踏み入れた時にこの大学で四年間勉強し、看護師と保健師の資格を取るのだと心に決めた。学生生活は、大学に入学したのだから、勉強だけでなく、部活動やサークル活動など、何事も積極的に行っていこうと決意をした、その反面、大学できちんとやつていけるのだろうかという不安もあった。

大学で講義が始まり、まず驚いたことは、高校までの教育とは全く違っていることだった。大学の講義は九十分、臨地実習があるなど、初めての経験ばかりであった。その中で私が一番戸惑ったことはカリキュラムであつた。高校では、受け授業が決められていて、それに従うというスタイルであつた。しかし、大学の講義は、自分が選択した講義を受講し、主体的に学習していくスタイルであつた。何事も自主的に物事を決め、進めていくことは自由な反面、すべてにおいて自己責任が問われて

看護の講義が始まると、臨地実習では知識だけでなく、看護技術も必要であることに気づいた。授業後に友達と実習室に残り、夜遅くまで練習を繰り返した。そこで疑問に思ったことや、わからないことをそのままにせず、文献を活用したり、先生方からの指導を受ける重要性を感じるようになった。

テスト前には図書館を利用し、夜遅くまで勉強もするようになつた。

高校では授業や勉強ばかりで部活動できなかつたので、大学では何事にも積極的に取り組んで、大学生生活を充実させたかった。

大学に入学後は、自治会の役員になる、部活に入部する、また学園祭で模擬店を開くなどできるだけ多くの活動に参加している。これらの活動を通して、多くの人と関わることができる。同級生だけでなく、目上の人とどのように接したらよいのか、どのようにしたら自分の思いを相手に伝えられるかなど、以前よりもわかつたよう思う。

後期になると大学にも慣れ、友人との輪も広がつた。講義が早く終わつた日には、体育館を利用して、バレーボールやバスケットボールをして楽しんでいる。特に球技大会前には、連日、遅くまでバレーボールの練習をし、最終のスクールバスで帰ることも少なくなかつた。球技大会での

ボーラーやバスケットボールをして楽しんでいる。

特に球技大会前には、

連日、遅くまでバレーボールの練習

をし、最終のスクールバスで帰るこ

とも少なくななかつた。球技大会での

わがチームの結果は、あまり良いも

のではなかつたが、結果よりも、そ

れまでの過程が大切だたと思う。

これまでの過程が大切だたと思う。

真剣に一つのことを皆でやり遂げる

ことで、以前よりもずっと友人と親密にまた分かり合えるようになり、

良い思い出となつた。

私は将来、看護師や保健師を目指すにあたり、人との関わりが大切になつてくると考へている。そのため、大学時代に様々な活動を通して人と関わり、人の気持ちを理解し、看護技術だけでなく、心のケアも十分にできる看護師になりたい。

大学に入学して一年間で多くの人と知り合い、多くのことを経験し、知識を身につけることができた。三年後の卒業時、大学生活を振り返つてみて、日本赤十字豊田看護大学に入学してよかつた、楽しかったと思えるように残りの三年間、悔いの無い大学生活を送つていきたい。

# トピックス

## 痴呆に替わる用語

### 「認知症」の誕生

学部長 小西美智子



二〇〇四年  
十二月二十四日  
に厚生労働省  
から痴呆とい  
う言葉に替わ  
る用語として、  
認知症が提示されま  
した。そして二〇〇五年四月からの  
一年間は「認知症を知る一年」とし  
て、今まで痴呆と言う言葉を使用し  
てきた法律関係の規定を改めると  
もに、単に名称だけを変えるのでは  
なく、従来痴呆という用語に含まれ  
ていた誤解や偏見等が解消ができる  
ように認知症について広報を行う方  
針を打ち出しました。

昨年の二〇〇四年四月に高齢者痴  
呆介護研究・研修センター長から厚  
生労働省に痴呆という呼称の変更を  
求める要望書が提出されました。そ  
して厚生労働省は「痴呆に替わる用  
語に関する検討会」を設置して、約  
半年間にわたって委員会が保健・医  
療・福祉専門家及び関係者にヒヤリ  
ングを行い六つの候補例を選定し、  
ホームページ等で国民から意見を求  
めました。

高齢者特に七十五歳以上の後期高  
齢者では、痴呆になる者の割合が増  
加します。痴呆は成人における認知  
(知能) 障害であり、記憶、判断、  
理解、計算等の機能が障害される状  
態を指す言葉です。しかし、この用語  
は、高齢者の社会的・精神的機能を制  
限する病気ではなく、高齢者の正常な  
老廃過程であることを示す言葉であ  
ります。そのため、この用語は、高齢  
者の社会的・精神的機能を制限する病  
気ではなく、高齢者の正常な老廃過程  
であることを示す言葉であるべきであ  
ります。

そこで、この用語を改めることで、  
この用語が高齢者の正常な老廃過程  
であることを示す言葉であるべきであ  
ります。そのため、この用語を改めること  
で、この用語が高齢者の正常な老廃過程  
であることを示す言葉であるべきであ  
ります。

この用語を改めることで、この用語  
が高齢者の正常な老廃過程であることを  
示す言葉であるべきであることを示す  
ことになります。そのため、この用語  
を改めることで、この用語が高齢者の正  
常な老廃過程であることを示す言葉であ  
るべきであることを示すことになります。

## いとすぎの丘

学長 村地俊二

イタリア北部にある「ソルフェリノの丘」とは、一八五九年にフランス・イタリア連合軍とオーストリア軍との壮絶な激闘が繰り返された末、連合軍が奪取した歴史的古戦場の名称である。

その日、すなわち一八五九年六月二十四日、スイス（ジュネーブ）の実業家アンリ・デュナン（Henry Dunant）（注1）

は彼の事業に関する陳情のため、フランス皇帝ナポレオン3世を求めてたまたまその戦場に居あわせた。そして戦死傷者四万人といわれる19世紀最大の悲劇に遭遇し、凄惨な現場で彼自身も土地の女性たちと共に2昼夜にわたり負傷者の救護活動にあつたのである。

デュナンは言語に絶する悲劇の痛烈な体験と忘れない印象を綴り、一八六二年「ソルフェリーノの思い出」という著書を自費出版し、戦禍の悲惨さとボランタリ救護組織の設立を訴えた。この著書（注2）は読者の感動と共感を呼び、多国語に翻訳され世界中に拡がり、新しい負傷兵救護団体の誕生を経て、国際赤十字条約の成立（一八六三）を見るに至った。そして国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）、赤十字国際委員会（ICRC）等の設立、日本を含

め世界百八十一カ国の加盟を見る国際活動の礎を築いた功労者、アンリ・デュナンは第1回ノーベル平和賞授賞に輝いたのである。

その後、一九五九（昭和34）年、世界各国は「赤十字思想誕生一〇〇周年記念行事」を盛大に挙行した。その記念行事の一環として、ソルフェ

リーノ戦場跡に自生の「糸杉」の種子が集められ、イタリアから日本に送られた。駐日イタリア大使から日本赤十字社社長に贈呈されたその種子は、全国赤十字部に配布された。

日本赤十字社では愛知県農業試験場にその播種育苗を依頼したが、その年九月は折悪しく歴史的災禍をもたらした伊勢湾台風によって苗床はひどく荒らされ、育成は難航した。

しかし農業試験場の尽力によつて何とか百本余りの糸杉が育ち、日赤愛知県支部は各所に記念樹として分配した。当時、名古屋市中区新栄町二一一に所在の支部庁舎前庭に植樹した糸杉の苗木は十年後には50cmから約2mの若木に生育した。

しかるに一九七一（昭和46）年、日赤愛知県支部は社屋を新築移転することになつたが、新敷地内にその糸杉の移転場所が得られず、やむなく当時、名古屋第一赤十字病院の一隅にあつた付属看護専門学校の校地に移植することになつたのである。（注3）

当時2m余の糸杉の若木はその後、日本赤十字愛知女子短期大学（のち

日本赤十字愛知短期大学と改称）に二〇〇三（平成15）年まで32年間短大室前の校庭垣根脇に15mの大樹として佇立していた。私は当時、その糸杉の孤影と傍らの「赤十字思想誕生百周年記念植樹」の立て札を眺めつつ、ソルフェリーノの故事に思いを馳せたものであった。

（注4）

やがて、四年制看護大学設立の構想が実を結び、短大（専攻科を含む）も新学舎に移転共存が予定されると、私は是非ともこの由緒ある「糸杉」の伐採あるいはこの場所に朽ちさせることに忍びず、新大学のキャンパス内に移植したいと願うようになつた。

そして種々の要件、準備処置を検討し、日本赤十字豊田看護大学設置準備室（平成十三年四月設置）の西川由己建設課長の理解・協力・監督の下に1年前の「根切り」「開学前の運搬・移植」等の作業を着々と実施したのである。

（注1）本学管理棟玄関ホールに安置するソルフェリーノの胸像が置かれており、日本赤十字豊田看護大学のシンボルツリー並びにロゴマークとして輝き続けることであろう。

順調に1年間の成育を遂げた糸杉群は、やがて亭々たる杉並木となり、先のソルフェリーノ原産の糸杉大樹と共に、日本赤十字豊田看護大学のシンボルツリー並びにロゴマークとして輝き続けることであろう。

帰して、世界の平和と人類の幸福を心から願い、そして赤十字活動の発展を祈つて欲しいと思うのである。さらに先述の西川建築課長の提言と指導により、国内における糸杉の栽培所を探し求め、漸く入手した糸杉の若木24本が日本赤十字豊田看護大学正門から正面玄関に通ずる階段の両側に並木坂として植樹された。

さくらに先述の西川建築課長の提言と指導により、国内における糸杉の栽培所を探し求め、漸く入手した糸杉の若木24本が日本赤十字豊田看護大学正門から正面玄関に通ずる階段の両側に並木坂として植樹された。

日本赤十字愛知短期大学と改称）に二〇〇三（平成15）年まで32年間短大室前の校庭垣根脇に15mの大樹として佇立していた。私は当時、その糸杉の孤影と傍らの「赤十字思想誕生百周年記念植樹」の立て札を眺めつつ、ソルフェリーノの故事に思いを馳せたものであった。

（注4）

やがて、四年制看護大学設立の構想が実を結び、短大（専攻科を含む）も新学舎に移転共存が予定されると、私は是非ともこの由緒ある「糸杉」の伐採あるいはこの場所に朽ちさせることに忍びず、新大学のキャンパス内に移植したいと願うようになつた。

そして種々の要件、準備処置を検討し、日本赤十字豊田看護大学設置準備室（平成十三年四月設置）の西川由己建設課長の理解・協力・監督の下に1年前の「根切り」「開学前の運搬・移植」等の作業を着々と実施したのである。

（注1）本学管理棟玄関ホールに安置するソルフェリーノの胸像が置かれており、日本赤十字豊田看護大学のシンボルツリー並びにロゴマークとして輝き続けることであろう。

順調に1年間の成育を遂げた糸杉群は、やがて亭々たる杉並木となり、先のソルフェリーノ原産の糸杉大樹と共に、日本赤十字豊田看護大学のシンボルツリー並びにロゴマークとして輝き続けることであろう。

（注2）「ソルフェリーノの思い出」アンリ・デュナン著 フックス印刷所

（注3）「百年史—日本赤十字愛知県支部」昭和63年3月31日 同支部編集発行

（注4）「糸杉の丘」への回帰 初版本は本学常設展示室に展示中 第5章 P482

（注5）「糸杉の丘」への回帰 No.489 P145

（注6）「糸杉の丘」への回帰 平成12年 9月発行

（注7）「糸杉の丘」への回帰 愛知の国保



図書館長  
石黒士雄教授



図書館はキャンパスのほぼ真ん中で、講義室、食堂にも近く、学生中心の位置取りである。開館は月曜から土曜。午前九時、午後七時まである。独立した建物であるので、アプローチや館内には十分な光が差し、気持ちの良いスペースである。昼休みなどには、学生たちの出入りの途絶えることがない。

床面積は一二六六平方メートルで、一、二階の二フロントに分かれて書架が存在する。一階三八席（+AVと兼用共同学習室八席）、二階八二席、計一二〇席（十八席）。多くの席が窓際で、外側に向いているので、読書に疲れた時には、ちょっと顔を上げるだけで、自然が目に一杯飛び込んでくる。今のところ、試験期間中でも、席が足らなくなることはない。

向学心に燃える人たちが増え、そこの対策に困るような状態になればと期待している。

収容可能冊数が七万冊以上あるので、まだまだ余裕がある。構成は看護学、医学、自然科学がそれぞれ二六～二八%を占める。自然科学系の書籍が多いのは、当然だが、一般

の図書館との大きな違いは、古い書籍が少ないことであろう。自然科学发展系でも、看護学、医学は考え方の変化が早いことや、新しい知見が多い部分では、今日の常識が明日の非常識になることもあり、その時点の最新の情報を得られる必要がある。その観点からも、購読雑誌数は一三五誌（洋雑誌二〇種）と多い。

蔵書は愛知短期大学からの所蔵を含んでいるが、今年新たに購入した書籍だけでも三一二六冊で、在校生数で単純に割り算しても一人当たり約九冊となる。学生諸君は毎年一人当たり、九冊を超えるまつさらなる新しい本のページを開けることができる理屈である。

その他、本図書館の特色を挙げる

- ①ビデオ、CD、DVDなどの視聴覚資料が多い（二二七二タイトル）。
- ②データベースは医学中央雑誌、C I N A H Lなどには図書館だけではなく、学内からならどこからでもアクセスができ、現代を感じることができます。

③赤十字資料室：日本赤十字社の古い資料（書籍、写真）を収蔵している。博物館明治村に収蔵されていたものを、本年移管された。こちらは古いほど貴重である。今後、整

てくることが期待される。

④利用開放：他大学教員・学生のみならず、地域の医療関係者の利用を受け入れている。

水野智教授



水野智（みずの・さとし）、五二歳。愛知県豊橋市出身。愛知学院大学大学院博士課程で心理学（産業心理学教室、心理学、心理統計学）を学んだ後、名古屋大学教育心理学部教育心理学教室、名古屋大学大学院医療管理情報学教室を経て、平成十五年四月、本学の前身、日赤愛知短期大学着任。

平成十六年四月、日赤豊田看護大学設立と同時に本学へ。「心理学」、「コンピュータと医療社会」、「情報科学」、「保健統計」を担当。

専門は産業心理学、病院管理学、医療情報学。本学では、「心理学」、「コンピュータと医療社会」、「情報科学」、「保健統計」を担当。

主な研究テーマは、看護職の職務適応・キャリア発達、患者満足度の測定法の開発、診療情報提供（カルテ開示）。ここ数年は、患者満足度調査というのはそのひとつの中でも、患者満足度の測定法の開発に力を注いでいます。

遅まきながらわが国でも、医療の質の評価に、医療サービスの消費者・顧客である患者による評価を用いる機運が高まっています。患者満足度調査というのはそのひとつの中でも、患者満足度の測定法の開発に力を注いでいます。

すが、残念ながらわが国で行われるこの種の調査では、質問紙の妥当性、信頼性といった psychometric な特性への配慮が欠けている」とが多く、受け入れている。

今ひとつ実用的なツールが開発されていないのが実情です。解決すべき問題は多種ありますが、私は中で、患者満足度調査に特有な反応バイアスのひとつ、「寛容反応（lenient response）」（回答者が、寛容な、甘い評価をしてしまう傾向。患者満足度調査で顕著に現れることが知られている。）に焦点を当て、この影響を低減する測定ツールの開発を行っています。

私の研究：というわけではありませんが、若い研究者、大学院生たちの研究を支援することにもエネルギーを注いでいます。まず研究の初期段階は、徹底的に議論を重ねます。「研究とは何か」、「自分はいったい何を知りたいのか」、「エビデンスを作るはどういうことか」、すら認識できていない場合も多く、ある問題を「研究すること」と、それに「精通すること」との相違を徹底議論して理解・体感してもらいます。その上で焦点（自分が知りたいこと、確証したいこと）を絞り込み、それを検証し得る研究デザインを構築していくきます。議論も文献調べもハードなものを求めますが、その半年ほどを検証し得る研究デザインを構築していきます。

一年の間に、その若者がどんどん成長し、次第に一人前の研究者の目付に変わっていく様は、見ていてこの上なく嬉しく頬もしく感じる瞬間です。

※ホームページに、私の経歴の詳細、研究業績などを掲載しています。  
<http://www.miz-ngy.umin.ac.jp/>

私は日本赤十字愛知短期大学を卒業後、助産師養成コースを経て、名古屋第一赤十字病院へ就職しました。希望していた産科に配属されましたが、最初は業務の多さに戸惑いました。ひとりの患者さまに時間を費やすことのできた学生時代と比べ、患



日本赤十字  
愛知短期大学を卒業後、  
**臨床でがんばっている  
先輩を訪問しました。**

## 第九回 卒業生 可知さんえさん

## 名古屋第一赤十字病院 P I C U 勤務

短大コトナリ

ド上の生活を送るといったような日常は、かけ離れた環境の中でも、笑顔で明るく過ごされ、私たちスタッフにまでたくさんの元気を分けて下さる方が少なくありません。私はこの4年間、患者さまの笑顔と「ありがとう」という言葉のおかげで、「もっと頑張ろう、自分にできることを増やそう」と、失敗しながらも少しずつ自分のできることを増やしてきました。4年間は長いようにみえますが、臨床にあつては、まだまだ未熟なこともあります。また、やりたいこともまだまだ多くあります。

んに出会うために長期安静を保つ必要のある妊婦さんが入院されており、赤ちゃんのためにとても頑張っています。

輩や同期の励ましもありました）。  
産科は、他科と違い基本的にはお  
めでたい科です。が、当院の P I C  
U にはその特殊性から、病気ではな  
いのに（妊娠・分娩という自然の摂  
理のなかにあるのに）、元気な赤ちゃん

患者さまと接する以外にも業務は多く、患者さまにかかる時間が短いのです。業務に追われ、患者さまへのケアが思うようにできないこともあります。しかし、落ち込んだこともあります。

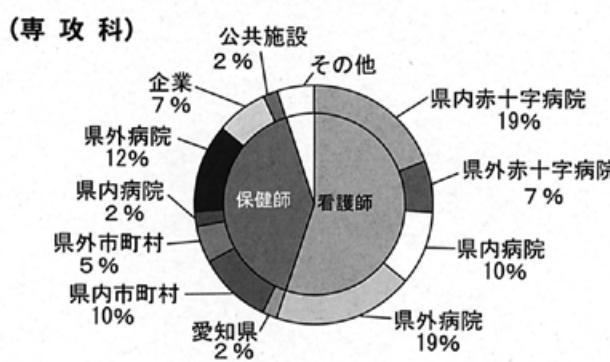
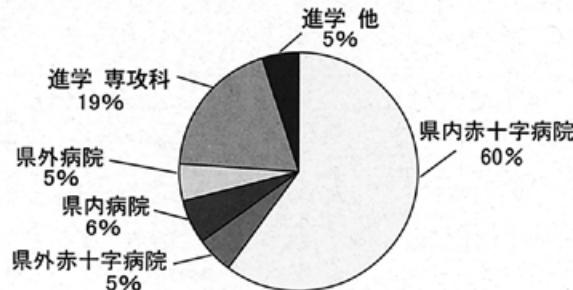
そう思える事はとても幸せで、この職業を選択して本当に良かったと感じています。

後輩の学生さんには、「やりたいことがあれば是非挑戦して欲しい。」と思います。まとまつた時間がとれるのは学生時代までです。また、もしやりたいことが見つかっていなければ、見つけるための行動を惜しまないでください。

何かひとつでも夢中になつて全力投球することは、一生の力になると信じます。

平成16年度 日本赤十字愛知短期大学  
— 卒業後の進路 —

(看護学科)



## 国家試験が終了しました

	本学合格率	全国合格率
看護師	93.8%	91.4%
保健師	90.5%	81.5%

\*いずれも、過年度卒を除く

## 入学試験雑感

本学教育目的は、赤十字の理想とする「人道」の理念に基づき、看護職としての倫理的・科学的根拠と方法を学術的・体系的に追求できる看護教育を行い、更に社会的要請に応え、看護専門職として国内及び国際的な場において実践活動ができる人材を育成することにあります。この教育目的に沿って、入試を実施しております。本学の入試は、一般入試、高等学校長推薦入試、社会人特別選抜入試、日本赤十字社中部各県支部推薦入試の4種類で実施しております。これらの多様な入試形態は、多彩な個性・能力をもつ学生を受け入れるための試みでもあります。

特に、日本赤十字社中部各県支部長推薦入試は、赤十字の活動の一つである救護看護師を養成するための入試であり、学生には、将来、中部地区の各病院で指導者となりうる基盤を育成することが期待されています。

平成16年度入試は開学初年の入試ということもあり、多くの受験生、保護者、学校関係者の期待を集めました。一般入試の応募状況をみると、中部各県にとどまらず、北は福島県から、南は長崎県まで数多くの受験がありました。

2年目にあたる平成17年度は、昨年と比べて志願者減にならないように広報活動を活発に展開いたしました。7月から8月にかけてのオープンキャンパス、数多くの高校訪問、受験雑誌への掲載、県下で開催された学校説明会への参加など努力しました。当初は出願者が少なく、受験者数の減少を憂慮しましたが、出願期間の後半には出願者の数がどんどん増え、関係者一同胸を撫で下ろしました。本学への期待の大きさを改めて自覚し、責任の大きさを感じた時もありました。今後も、本学の教育目的を着実に達成させるべく、努力していく所存です。

入試委員会、学生課

いとすぎの丘 vol.1

発行日/2005年5月1日

編集・発行/日本赤十字豊田看護大学

広報・公開講座委員会、総務課

〒471-8565 豊田市白山町七曲12番33

TEL 0565-36-5111 FAX 0565-37-8558

Mail to/info@rctoyota.ac.jp

<http://www.rctoyota.ac.jp/>



## Information

### 平成16年度「赤十字の活動と救護」の 講演会・講習会実施しました

本学では、大学と市民との交流として「赤十字の活動と救護」をテーマに講演会・講習会を実施しました。講演会では、「赤十字」を身近に感じていただき、更には講習会では、実際の生活の中で役立つ技術・知識を習得していただくよう様々な体験をしていただきました。どの会も多数のご参加をいただき、和気あいあいと市民の皆様と交流することができました。なお、17年度も引き続き「パワーアップからだもこころも生き生き健康」と題しまして、人々が元気いっぱい、生き生きと暮らせるなどを皆様と共に考えて行きたいと思っておりますので、多数のご参加をお待ちしております。

広報・公開講座委員会、総務課

### オープンキャンパス

平成16年度のオープンキャンパスは、7月と8月に2回実施し、参加者は、337名でした。体験・デモンストレーション、教員との進学相談コーナー、在学生とのキャンパスライフ談話コーナー等好評を得ました。

平成17年度の開催については、5月の下旬にホームページ等でご案内する予定です。

入試委員会、学生課

### 平成16年度 入学志願者状況 (第1回生)

	志願者	入学者
一般	487	64
高等学校長推薦	55	38
日本赤十字社中部各県支部長推薦	29	29
社会人特別選抜	9	3
合計	580	134

